

第5節 高校2年生

国際理解と平和Ⅱ

—沖縄に学ぶ・わたしたちが世界にできること—

杉本雅子・吉川奈奈
曾我雄司・飯島幸久
仲田恵子・高橋伸行

【抄録】 高校2年次には、1年次で培った個人研究のスキルをもとに「沖縄」をテーマとしたグループ研究を行う。沖縄研究旅行でのフィールドワークを総合学習の中心に据えた2年生のプログラムには長年にわたる本校の取り組みが生かされている。過去の取り組みの意義を押さえつつ、集団の状態や社会情勢に即した試みを取り入れていくことが課題である。

【キーワード】 グループ研究 学び合い 個人への支援 現代性 国際理解

(1) テーマと目標

1 テーマ 国際理解と平和
サブテーマ 沖縄に学ぶ・わたしたちが世界にできること

2 学年の目標

- ①沖縄戦を体験された方々、沖縄で生活する方々との交流を通して、平和の尊さや現在の社会の様相を実感する。
- ②現在の自分を見つめ、将来どんな社会貢献ができるかを考え、そのために今すべきことを見出す。
- ③グループ学習を通して学び合い(他の人の意見を知る、独りよがりにならない)をする。

(2) 学習方法

高校1年で身に付けたスキルを生かし、沖縄を大テーマに、平和、環境、文化の観点からグループ学習を行う。11月に実施される3泊4日の沖縄研究旅行でのグループ別フィールドワーク(以下FW)を中心に据える。

(3) 実践

- 第1回 4/12
教員によるイントロダクション to 沖縄
(沖縄戦・米軍基地・文化・歴史・環境・国際・産業)
- 第2回 4/16
オリエンテーション
(高2総合人間科概要説明、研究旅行下見の報告)
- 第3回 4/19
プレ研究①
(グループ分け、テーマ決定)
- 第4回 5/10
プレ研究②
(調査、テーマを深める)
- 第5回 5/24
プレ研究③(発表準備)
- 第6回 6/7

プレ研究発表会

- 第7回 6/28
研究グループ(旅行班)結成・研究テーマの決定 夏休み FWの候補地の調査
- 第8回 9/6
研究テーマ決定、FW日程検討・交渉開始
- 第9回 9/27
映画「GAMA-月桃の花-」鑑賞
- 第10回 10/9
FW先に依頼状発送、質問内容の検討
11/13~16 沖縄研究旅行
- 第11回 11/22
研究集録執筆
- 第12回 12/6
研究集録執筆
- 第13回 1/17
研究発表準備
- 第14回 1/24
研究発表会①(クラス)
- 第15回 2/7
研究発表会②(学年)・・・☆参照
- 第16回 3/6
1年のまとめ、高3へのイントロダクション

☆学年発表の後、高校1年生に来年度総合人間科の紹介として同じ発表を行った。以下は高校1年生への発表の際に教員に配られた実施要項である。

◎スケジュール

- 上段：5限目(13:15~30)
下段：5限目(13:35~50)
- S1Aへ訪問 2年A組5班(平和)
2年B組6班(環境)
- S1Bへ訪問 2年A組4班(平和)
2年B組5班(文化)

S1Cへ訪問 2年C組2班(平和)
2年C組6班(文化)

※A組の二班ともが「平和」がテーマなので、組み換え
をしています。ご了承ください。

※発表入れ替えなどのため、発表の間に5分とっています。

◎発表テーマ

S1A

A組5班 「意識から考えるヤマトンチュ・ウチナンチュ」
沖縄県民の「意識」と自分たちの「意識」の
ズレに注目して、平和の問題を考える。

B組6班 「沖縄にしかない自然

～後世に残していく為には～
自然の保護政策を切り口に、沖縄での自然保
護の在り方について考える。

S1B

A組4班 「What will they do?

～もし沖縄に基地がなかったら～
基地があるという前提から離れ、なかった場
合を仮定して基地の存在の良い点・悪い点を
考える。

B組5班 「沖縄の音楽」

知識として知るだけでなく、楽器演奏など
を実際に演奏しつつ沖縄音楽を考える。

S1C

C組2班 「米軍基地問題」

米軍基地問題について、公・民の両者の立場
を踏まえながら考える。

C組6班 「チャンプルー文化」

沖縄の独自性の強い文化のうち、実際に食べた
経験などを踏まえて「食」に注目して考える。

◎機材など

プロジェクターなど発表に必要なものは、高2で用意。

各教室のTV・スクリーンが使用可能であるかは、高1
で確認してください。

Q. 確認事項

- ・上記のスケジュールでよろしいでしょうか？
(時間帯変更など)
- ・発表時間は、質疑応答込み15分でいいですか？
(もっと、しゃべりたい・・・かな？発表者)
- ・発表を見ての感想などをS1の生徒にお願いしても
よろしいでしょうか？
(時間の都合など無理ならば結構です)
- ・各班の前に、どんな発表であるか(上記一行解説程
度でOK)を、各クラス担任の先生に紹介いただい
てもよろしいでしょうか。

沖縄研究の発表の後に、来年度の総合人間科(高校3
年生の大テーマは「生き方を探る」)のオリエンテーシ
ョンと、進路希望のアンケートを行った。それを基に春休
み中に進路希望別のグループを作った。高校3年生の最
初からグループ別の活動を開始することができた。

(4)成果と課題

高校2年次では、沖縄をテーマに、社会と自己との関
わりを自覚していくことが目的とされる。

11月に3泊4日の沖縄研究旅行が実施される。その中
心となるのが、生徒自身が計画・実行する3日目の班別
行動である。このフィールドワークを行うために、長い
準備期間が必要である。

班分け、班のテーマを話し合って決める、先方と電話
で交渉し、約束をいただき、依頼状を発送する。
現地ですぐに行動し、お話をうかがう。帰ってお礼状を
書く。自分たちが経験したことを発表する。

この一連の事柄を通して、生徒たちは仲間と協力して
1つのことを仕上げる楽しさ、難しさ、大人と対等に話
をするために必要な社会のルールなどを学んでいく。沖
縄で、その分野の専門家と対等にお話をさせていただく
ことは、生徒には忘れられない体験となっている。沖縄
での人やものとの出会いが、進路選択に与える影響は少
なくない。

総合人間科が生徒に与える効果の大きさは本校の教員
に年を追うごとに実感され現在に至っているが、高校2
年次の活動に関する二つの課題を挙げておきたい。

一つは、「グループ研究の中で、個人の目標をどう設定
し、教員がどう支援するか」ということである。高校2
年次はグループによる研究なので、グループとして課題
がこなせれば教員はそれでよしとしている。しかし、個
人が活動の中で達成感を持てたかどうか、自分の成長が
あったと感ぜられたかどうかは検証されていない。各人
が自分の問題意識を持ち、教員が支援できるようにして
いきたい。

もう一つは、「テーマや活動内容が以前からの繰り返し
となり、マンネリ化している」ということである。長
年の取り組みにより活動の型ができ、教員がそれを熟知
しているというのは強みである。情報が蓄積されやす
く、いろいろなアレンジもしやすい。ただ、高校2年の
もう一つの眼目である「現代性」や「国際理解」の観点
が手薄になっている感は否めない。このことについては
現代の沖縄の状況を語ってくださる方を探すこと、教員
自身が知見を広めることで解消できるのではないか。そ
の試みとして今年度は沖縄研究旅行で、現地で不発弾撤
去に取り組むボランティアの方に講演をしていただい
た。従来の活動の意義を確認しつつ新しい視点や方法を
加えていきたい。